

学校安全総合支援事業報告書【防災に関すること】

学校名「 熊本県立南稜高等学校 」

住所：熊本県球磨郡あさぎり町上北310

電話：0966-45-1131

I 学校の基本情報

- 生徒数：381人（13学級）
- 職員数：70人
- 令和2年7月豪雨の状況
 - 生徒：再開時登校不可者数123名、床上浸水20名、教科書・制服等被害21名
 - 職員：出勤不可者数1名、床上浸水2名

II 取組の概要

1 安全教育手法の開発・普及

(1) 防災教育の実施

「学校防災教育指導の手引」を活用し、防災教育から「自助」、「共助」の行動ができることを意識した学習を実施した。

また、他の教科や学校行事と関連させ、カリキュラムマネジメントの視点を踏まえた授業展開と避難訓練を関連づけた。

期日	取組み内容（予定含む）
4月6日	職員会議で学校安全計画、各種マニュアルの周知確認
4月8日	始業式の学校長挨拶で防災について話す
4月11日	対面式で生徒会長が防災について話す
4月14日	熊本地震に係る追悼
6月17日	公開授業（科目「農業情報処理」）で防災教育
9月4日	令和4年度あさぎり町防災の日（雨天中止）
10月24日	公開授業（科目「球磨農林学」）で防災教育
11月2日	収穫感謝祭（炊き出し訓練）
11月6日	あさぎり町避難所開設・運営訓練に参加

期日	取組み内容（予定含む）
11月9日～10日	先進建設・防災・減災技術フェア in 熊本2022
11月19日～22日	令和4年度（2022年度）「学校安全総合支援事業」に係る先進地視察
12月6日	本校運営委員会で避難訓練の周知徹底（機能訓練）
12月10日	令和4年度地域協働活動推進員設置委員会
12月13日	避難訓練（地震・火災）、実施後アンケート
2月9日	学校運営協議会で活動報告及び関係機関より助言

(2) 機能訓練を踏まえた実践的な避難訓練の実施

12月13日（火）に実施した。上球磨消防組合消防本部と人吉防災に来ていただき、生徒と職員の避難や消火器使用について指導・助言をいただいた。また、あさぎり町危機管理監や学校支援アドバイザー、熊本県学校安全・安心推進課、人吉・球磨5校の防災主任と訓練後に協議を行い、指導・助言から今後の改善に向けた活動ができた。

(3) 防災主任の資質・能力の向上と校内の連携体制の構築

- ア 防災教育に関する研修会へ参加
- イ 防災教育関連情報を職員に提供
- ウ 授業展開に防災情報を導入
- エ 校内掲示で防災関連情報を提供
- オ 防災教育関連の校務分掌計画
- カ 関係機関との連携調整

(4) PDCAサイクルに基づく、危機管理マニュアル及び学校安全計画の検証・改善

- ア 各マニュアル・学校安全計画の周知
- イ 各マニュアル・学校安全計画に基づく防災関連行事の実施
- ウ 行事等終了後の振り返り
- エ 各マニュアル・学校安全計画の改善

(5) AEDを用いた心肺蘇生法

- ア 実施日
7月1日(金)
- イ 講師
上球磨消防組合消防本部救急救命士
- ウ 受講人数
38名
- エ 実施場所
あさぎり町生涯学習センター体育館

(6) その他

III 取組の成果と課題

1 安全教育手法の開発・普及

(1) 防災教育の実施

ア 成果

(ア) 6月17日(金)に教科「農業」の科目「農業情報処理」でマイタイムラインについて理解させた。災害が起きた際、自分自身の命を守るための知識と行動を理解し、災害時に備えることや家族や友人とどこで再開すれば良いかを決めておく大切さを理解した。個人用タブレット端末で情報収集ができ、危険地区を調べさせ、どのような危険が想定できるのか発表させることができた。

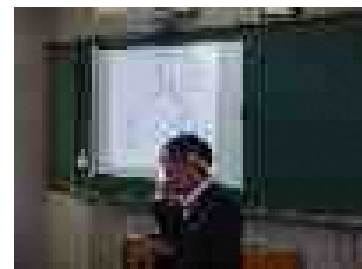
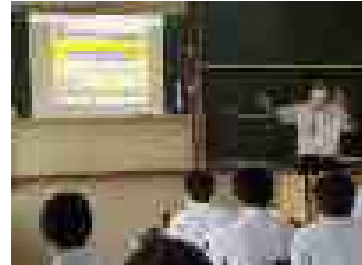
(イ) 10月24日(月)に教科「農業」の科目「球磨農林学」で「自助・共助・公助」について学んだ。講師はあさぎり町危機管理監の橋本啓之様に依頼した。

イ 課題

(ア) 個人用タブレット端末で情報収集ができたことで「くまもとマイタイムライン」の作成ができた。また、このことから生徒同士や家族間で防災に対

して話し合えるようにしたい。

(イ) 熊本地震や令和2年7月豪雨などの教訓から講義の中で「自らの身の安全は、自らが守る(自助)とともにお互い助け合う(共助)こと」、有事における町役場(公助)の役割を学んだ。



(2) 機能訓練を踏まえた実践的な避難訓練の実施

ア 成果

12月13日(火)に地震・火災を想定した総合訓練として行った。消火器実技訓練では使用方法を知り、代表生徒と職員が初めて使用し、消火することができた。講評では関係機関からの指導は以下の通りであった。

- a 職員の指揮がない。率先して動き、逃げる場所の指示を行うこと。
- b 避難中に校内情報がわからない。逃げ道や障害物などを伝えること。
- c 訓練後に振り返りをしてほしい。
- d 生徒も職員も笑顔があった。意識が薄いので改めてもらいたい。
- e シェイクアウト訓練が実施され、生徒の落ち着いた行動が見られた。机を手で押さえて身を守ること。
- f 物の固定をしてほしい。
- g 管理職不在もあるので順番を決めてリーダーを決めておくこと。

- h 停電時の連絡手段（拡声器など）の確保をすること。
- i 防火扉や防火シャッターを用いた訓練もして欲しい。

イ 課題

今回の訓練で関係機関より問題点の指摘を受けた。また、校内放送機器やマニュアルの不備を発見することができた。今後の防災教育に活かし、校外でもその行動ができる社会人を育てたい。

(3) 防災主任の資質・能力の向上と校内の連携体制の構築

ア 成果

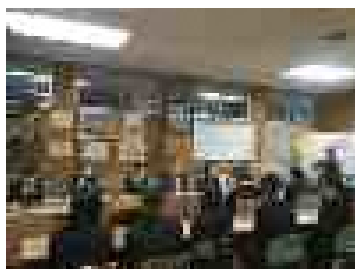
防災主任の資質・能力の向上と校内の連携体制の構築についての活動は以下の通りである。

- a 熊本県学校支援チーム隊員
- b 総合型コミュニティスクール学校運営協議会（本事業説明）
- c 防災主任研修会（風水害の対応、学校安全計画の見直し・改善など）
- d 先進地視察（学校安全主任講習会受講、先進的な学校及び施設見学）
- e 令和4年度地域協働活動推進員設置委員会（山梨県立吉田高等学校とのWeb参加）
- f 防災教育公開授業
- g あさぎり町避難所開設・運営訓練

イ 課題

研修会等で防災主任の資質・能力の向上をすることや関係機関との連携・構築ができた。今後も学校防災年間計画や各種マニュアルの見直しを行い、校内連携を図る。

地域連携の充実を今後も継続し、地域防災の拠点となるように進展させたい。



- (4) PDCAサイクルに基づく、危機管理マニュアル及び学校安全計画の検証・改善
避難訓練実施後に関係機関より指導・助言をいただいた。また、校内アンケートからは以下の指摘があり、マニュアルの改善をする。

ア 職員の点呼方法について

今回は教頭不在で生徒と職員の点呼を事務長が行った。情報集約が難しかったので、「事務長は職員」、「生徒は教務主任」が集約することへ変更する。

イ グラウンド等での対応について

屋外で地震が起きた場合は低い姿勢で倒壊物の近くから離れることを周知徹底する。

- (5) AEDを用いた心肺蘇生法

ア 成果

「普通救命講習」では講習時間が3時間以上と定められており、修了者には「修了証」が発行されました。

講習では、主に心肺蘇生とAEDの使用に関する実技に取り組むとともに、傷の手当、やけどの手当、熱中症への対応

等についても学習しました。

イ 課題

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために、一昨年度と昨年度は1回当たりの受講生徒数を20人に絞って本校の武道場で実施していました。今年度は人数制限が外れたが、感染症予防対策を行って実施することができた。



(6) その他

ア 成果

11月6日(日)にあさぎり町避難所開設・運営訓練が実施され、本校生徒5名が参加した。避難所の開設や運営等を体験することで「自助」と「共助」を学習することができた。振り返りであさぎり町危機管理監から「何かあれば手助けして欲しい」と高校生に対する期待も話された。

イ 課題

今後も行政機関と連携し、避難所開設・運営訓練の継続をしたい。本校生の生活する地域で実施されるときに参加できるように計画したい。